がんと痛み

当院はがん診療連携拠点病院です。主な役割は専門的ながん医療を提供すること、治療の初期段階から不安や痛みなどを和らげる緩和ケアを提供することなどです。「がんの痛み」を和らげる緩和ケアについてご紹介します。

● がんと痛み

がん治療中の患者さんの約半数の方が痛みを経験しています。痛みは日常生活に影響を及ぼすなど様々な問題を引き起こします。

痛みを我慢して生活使用とするのはよくありません。

➡ では、どのように治療するのでしょうか??

● 痛みの治療とがん治療（放射線・手術・化学療法）との関係

痛みの治療とがん治療（化学療法・放射線療法・手術療法）は並行して受けることができます。痛みの治療を開始からといってがん治療の効果は弱まりません。痛みが緩和され、がん治療をしっかりと行うことができます。

● 痛みの治療

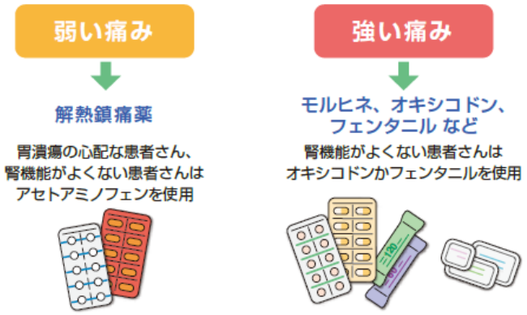
痛みを感じている患者さんにしか「痛み」は分かりません。痛みの診断・治療は患者さんが痛みを伝えることからはじまります。痛みがあることと痛みの場所や性質、程度を伝えて下さい。

痛みの治療は薬物療法が中心です。その他にも放射線療法、神経ブロックなどがあります。患者さんの痛みの原因に合わせて痛みの治療を選択します。

● 痛みの治療に使われる薬

弱い痛みの治療には解熱鎮痛剤、中等度の痛みから強い痛みには医療用麻薬を使用します。

「麻薬」と聞くと中毒になる、最期の薬、寿命が縮まるなど心配があるかもしれません。きちんと使えば心配いりません。そして、がん治療が効果を奏して痛みが軽減すれば中止することもできます。



痛み止めは一時的に内服するよりも定期的に内服することで効果が持続します。医師に指示された時間や量を守りましょう。また、定期的に内服しても残存する痛みに対しては頓服の痛み止めを使用します。痛みで日常生活が障害されないように上手に頓服薬を使用しましょう。

● 1 人で悩まず相談を!!

痛みに関する悩み、医療用麻薬に対する不安、医師にどのように痛みを伝えたらよいか分からないなど、悩みがある場合は外来や病棟の看護師や薬剤師にもご相談ください。

がんをがんの専門家が治療するように、豊富な知識と経験で、最適な痛みの治療を行う専門家（チーム）がいます。

当院では「緩和ケア内科外来」、「がん診療支援チーム」といいます。外来でも入院でも、患者さんの希望に沿って利用することができます。痛み以外のがんに関するいろいろな困ったことも対応しています。

いつでもご相談ください♪

痛みの治療に困ったときに役立つ本もご活用ください。